学校だより　令和五年度七月号

武中の風

<発行>
鹿児島市立
武中学校
鹿児島市武 3-42-1

8・6水害から三十年

校長　前田　浩二

7月になり、毎週のように日本中で豪雨災害のニュースが流れています。氾濫した川、押し流された家や車、崖崩れ・・・そんな映像を見るたびに三十年前経験したことが頭の中によみがえります。

今から三十年前の8月6日、私たち夫婦は、国道10号線を姶良市から鹿児島市方面へ車を走らせていました。新婚旅行で北海道を一周しての帰り、鹿児島空港から紫原のアパートへ向かう途中でした。

竜ヶ水を過ぎたあたりから渋滞のため車が全く進まなくなりました。すると、それと呼応するかのように雨足が急に激しくなり、止まっている車へ今まで経験したことのないような強烈な雨が襲ってきました。一時もしないうちに次々に崖が崩れ、電線が切れて火花を上げ、道路に濁流が押し寄せてきました。しかし、国道10号線のこの区間は右は切り立った山、左は海で、抜け道は一切なく、大渋滞で前後を挟まれた私たちの車は逃げようがありませんでした。車を捨てて逃げようとドアを開けた途端に泥水が車内に飛び込んできました。私たち夫婦は腰まで泥水に浸かりながら山手の病院へ避難しました。振り返ると、屋根近くまで浸水した愛車が見えました。

私は病院へ避難してきた他の男性たちと一緒に、ＪＲ日豊線の線路を横切って病院へ避難してくる人たち、特に子どもやお年寄りを土手の上へ引き上げる作業をしていました。その時、「危ないぞー」という叫び声を聞き、山手を見上げると、崖から流木の群れが滑り落ちてきました。すんでのところで逃げることができましたが、直撃していたらと思うとぞっとしました。

病院では電気も電話も断線し、真っ暗でしたが、みんなで励まし合いました。みんな全身ずぶ濡れでしたが、病院が毛布を貸してくださり、温もることができました。また、漁船が救助に来てくれたことも、船までの誘導を自主的に行ってくれた人たちのことも忘れることができません。

今、改めて当時のことを振り返ると、被害を避けるチャンスはあったと思います。鹿児島に戻る前に、霧島市にいた兄から「ここ数日、尋常じゃない雨が降っているから気を付けろ。」と言われ、空港からの帰りに立ち寄った姶良市の妻の実家では、義父から、「危ないから今日は泊っていきなさい。」という声もかけてもらっていました。それなのに、早く帰りたい一心で、豪雨と渋滞が予測される抜け道のない国道10号線へ飛び込んでしまいました。

自然災害に対して、人は雨や地震を止めることもできないし、台風の進路を変えることもできません。できるのは、逃げることと被害を最小限に抑える手立てをとることです。そのために特に自治体の出す警報は自分のこととして真剣にとらえる必要があります。

８・６水害の写真集に小さく写った我が車の残骸を見ながら、あの時、多くの人の助けがあって無事だったんだなとしみじみと思います。防災、減災、助け合い、私が三十年前の経験から学んだことです。

親子奉仕作業にご協力ください

夏休みに各学年毎親子奉仕作業が行なわれます。六時五十分に集合して、八時までの作業になります。帽子・軍手・水筒は各自持参してください。親子作業なので、生徒に作業の仕方や道具の使い方など指導しながら行なってください。一年生は八月六日、二年生は八月二十日、三年生は八月二十七日です。参加をよろしくお願いします。

鶴岡第二中学校との交流の歴史について

本校は、西郷南洲翁の遺徳を縁として結ばれた鹿児島市と山形県鶴岡市との兄弟都市盟約をもとに、友好・親善並びに両校の発展を目的として、昭和五十年八月鶴岡第二中学校と兄弟校としての盟約を結びました。以来、両校は、郷土の偉人である西郷南洲翁と菅臥牛翁が、互いに学問を通して学びあい、親交を深め、郷土の発展に尽力された功績を学校教育に生かし、郷土教育の一環としてその交流を深めてきています。

現在は、二年ごとに、相互に親善訪問団を派遣しあい、交流を重ねてきていますが、本年は八月一日から三日まで、鶴岡第二中学校へ武中学校が訪問して、交流を深めることになっています。

【盟約式】

本校と鶴岡第二中学校との兄弟校の盟約式は、昭和五十年八月二十六日、鶴岡市で行なわれ、本校からは生徒会長ら五名と校長を含む職員三名、及び父母など十五名で派遣団を結成して盟約式に臨みました。

盟約式では、鹿児島市の市木である「キョウチクトウ」五百本、県木の「クス」五本、桜島の溶岩十個を贈呈しました。

※昨年度両生徒会で作成した腕章のマークです。